

令和5年度 岡山県立矢掛高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和5年11月7日(火) 14:05～17:00
場所 矢掛高等学校 会議室
司会 田中宏和
書記 吉岡雄志
欠席 小野秀明

【会 長】

檜崎 裕志 地域住民・学識経験者
(元中学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長)

【副会長】

藤原 立志 地域住民・学識経験者 (元小学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長)

【委 員】

入野 晶彦 地域住民 (山陽新聞矢掛支局支局長)
奥村 美恵 地域住民 (矢掛高等学校地域協働活動コーディネーター)
小野 秀明 学識経験者 (矢掛中学校校長)
金子 晴彦 地域住民 (前矢掛町観光交流推進機構理事長)
田尻 佐知子 保護者 (矢掛高等学校PTA会長)
堀 賢一 地域住民 (矢掛町役場総務防災課課長、元矢掛高等学校PTA会長)
堀 伸二 地域住民 (備中西商工会矢掛地区代表理事、矢掛町観光交流推進機構理事長)
宮本 浩治 学識経験者 (岡山大学大学院教育学研究科准教授)
高月 秀人 矢掛高等学校 校長

【事務局】

田中 宏和 矢掛高等学校 教頭
瀬尾 洋司 矢掛高等学校 事務長
吉岡 雄志 矢掛高等学校 主幹教諭、E S D課長
植田 雄介 矢掛高等学校 教務課長
岡野 太郎 矢掛高等学校 生徒課長
横溝 清明 矢掛高等学校 進路課長

【次 第】

1 開会

- ①会長挨拶
- ②校長挨拶

2 説明・協議

- ①令和5年度学校自己評価(中間)の説明
- ②質疑・応答
～休憩～
- ③令和5年度学校自己評価アンケートについて
- ④教育活動の現状と今後について
高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業の中間報告
矢掛高校魅力化の現状
- ⑤質疑・応答

3 連絡

- ①第3回学校運営協議会の日程について
2月20日(火) 14:05～16:50
- ②その他

4 閉会

副会長挨拶

【議事録】

1 開会

①会長挨拶（檜崎会長）

11月5日にアイビースクエアで同窓会総会を行った。学校運営協議会でどれだけ学校にきちんとした提案ができるか重要である。忌憚のない意見を頂きたい。

②校長挨拶（高月校長）

経営目標として生徒の可能性を伸ばして地域に貢献する生徒を育てることを掲げている。学校運営協議会は助言組織ではなく、一緒に教育を考えていく組織である。具体的な手立てを示してほしい。

2 説明・協議

①令和5年度学校自己評価（中間）の説明

◎少人数クラス編成による個々の生徒への丁寧な教育の実践について

教務課（植田）

授業改善に向けて改善シートを作成したり、研修を実施したりしている。

生徒課（岡野）

チャレンジしなかったり、自己中心的に行動する公共意識が欠如したりしている生徒が増えている。自分たちからアクションを起こせるようにしたい。

進路課（横溝）

就職希望者は全員内定を頂いた。

進学も順調である。国公立大学は総合型選抜で7人中4人合格を頂いた。

面談を充実させた成果だと思う。

スタディサプリを導入している。動画は受け身になりがちである。やる気にさせる方法を模索している。チューター制をしき、全教員で関わっている。

ESD課と連携してやかげ学などの地域探究活動を進学保証に繋げている。

ESD課（吉岡）

地域行事やボランティアによって生徒の力を高めたい。評価をどのようにするのかを研究したい。

◎地域との連携推進による生徒の人間関係形成力伸長の実践について

教務課（植田）

各行事が円滑に行われるよう調整を行っている。

シラバスの中に地域の題材を入れてもらっている。

生徒課（岡野）

「実行までいける生徒」を育てたい。

地域に開かれた矢高祭がさらに良いものになるよう工夫したい。

登下校をお互いに見守る機会にしたい。校門で声掛けをするなど挨拶指導を強化している。

進路課（横溝）

「菌っ子だっぴ」など地域活動をさらに進化させて本当の意味での人間力を高める機会にしたい。生徒が受け身になりがちになっている。問われたときに自分の経験や考えを語れるようにしたい。

ESD 課（吉岡）

様々な教育活動の意義を生徒に理解させたい。生徒が社会課題に触れる機会を持ちたい。

堀賢一委員

備後地域のビジネス情報誌「ビジネス情報」に記事を掲載してもらった。
矢掛町役場でやかげ学の生徒6人を受け入れた。生徒は、意欲や信念を持っている。防災パンフレットをやかげ学生徒が作成してくれた。

パトロールをしたり文化財に触れたりする経験を増やしたい。

田中教頭

校内では受け身がちの印象があるが？

堀賢一委員

挨拶や声がだんだん大きくなってきた。最初は発言が少なかったが、だんだん増えてきた。褒めたり、頻繁に声を掛けたりすることでだんだん慣れてきた。
学校でももっと声掛けをすればまだまだ伸びると思う。

入野委員

やかげ学の今後について大変興味を持っている。
生徒たちが達成感を得られる仕組みを追加したい。町の活性化にも繋がる。

檜崎会長

やかげ学を充実させるために実習先の担当者との話がしっかりできているのか。

吉岡

実習先の担当者とはまずは生徒の状況を共有した。
やりたいことを企画できるようにしてもらっている。

高月校長

ループブック評価表について意見はあるか。

宮本委員

今日、授業参観をして、本当に授業改善を行っているのか疑問を持った。
日々の授業が探究型になっていないのに探究せよといってもできない。
以前は矢掛高校の生徒はもっと楽しそうに授業を受けていた。
特に1年生の生徒達の雰囲気は大丈夫か不安である。口にピアスをしている生徒がいた。
学校生活の楽しさや充実感は得られているのか。生徒指導はできているのか。

生徒課長

頑張っ取組んでいるが、家庭の価値観が多様化している。
4月のスタート時と比べると成長も見られる。これから頑張りたい。

宮本委員

地域の人からどう見えているか。地域にどう溶け込ませるか考えていかなければならない。
いわゆる生徒指導だけでは限界がある。探究型の授業が必要ではないか。

檜崎会長

授業の評価基準は教員全体で共有されているのか。
個々の教員が自分だけの視点からの意見になっていないか。

田中教頭

どのような視点で授業を改善していけば良いか。

宮本委員

ICTに頼りすぎている。「いい問い」を作るべきである。
発問を研究していくべき

藤原副会長

自己評価に生徒や教員のやっていることや成果と今後の伸びしろを明記し、変化がわかるようにしてほしい。

やかげ学などで挨拶や自分の言葉で最後まで話す機会を与え、間違えたらその場で厳しく指導してほしい。

やかげ学では担当者同士で具体的な協議をすることが特に大切である。

何のためにどんな仕事をするか目的意識を持たせることが重要である。

金子委員

授業が静かである。話合う雰囲気がない。以前はもっと和気あいあいとしていた。

試験の解答を作るための授業のように感じた。

笠岡からの物流道である「コトミチ」を再開発し、ユネスコの未来遺産に登録したいと考えている。

堀伸二委員

やかげ学の実習に2人の生徒が来ており、完璧に仕事をこなしている。

生徒たちは3/4は大人であり、多面性があるのは当たり前である。

目立つことが嫌という生徒が多い中でピアスをしているような元気な子どもたちがいるのは嬉しい。

やかげ学で刺激を受けられているのは良い時間である。

結果を恐れずに自信を持って町へ出てきてほしい。やかげ学卒業生の意見を聞く機会もほしい。

田尻委員

保護者目線ではやかげ学はありがたく、貴重な体験を頂いている。

保護者にやかげ学のいいところが伝わっていないと感じるのでもっと伝えていきたい。

PTA 評議員対象の学校説明会を開催した。来年も実施したい。地域との連携を深めたい。

吉岡

地域やPTAの立場では学校のどのような内容を知りたいのか

田尻委員

それぞれの教育活動が将来にどのように繋がるのかを知りたい。

入野委員

生徒指導は今の時代、難しい。弊社にも高校でこんなことを言われた、人権問題ではないかという問い合わせもある。

学校の雰囲気を良くするのも悪くするのも生徒自身である。生徒の代表としての生徒会が本気で校則の改正に取り組むなどの活動が大切である。何かアクションを起こさせることも良い。

岡野委員

学校としては校則について意見があれば対話する用意はある。

生徒は前に出て批判されることに抵抗を感じており、アクションを起こすことを嫌っている。

人間関係を作るスキルを高めていきたい。話を聞く姿勢を持たせたい。

～休憩～

③令和5年度学校自己評価アンケートについて

吉岡

アンケートの質問項目について説明。

本校においては⑧の質問は全県の平均より高くあってほしいが、昨年度は3ポイントほど少なかった。

檜崎会長

意味あるボランティアだけに精選すればよい。

宮本委員

外部のアンケート調査（三菱UFJなど）をとっていないのはなぜか。

吉岡

過去、1度行ったことがあるが、独自のアンケートで十分であると思っている。

室傍聴者

こうした調査は毎学期やってほしい。生徒の学校に対する満足度は常に把握しておいてほしい。

宮本委員

外部評価は大切である。社会で求められていることを把握する上で必要であり、非常に参考になる。経年変化を見ていくと矢掛高校の強みがわかる。

三菱UFJのアンケートなど権威ある外部調査は戦略的な広報に繋げやすい。

④教育活動の現状と今後について

高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業の中間報告

吉岡

資料説明。

教員の力量による問題も起きている。やかげ学について教員に対するきちんとした指示が必要である。こうした声掛けやアプローチが効果的だったという事例集を作っている。

矢掛高校魅力化の現状について

高月校長

資料説明。

存続→魅力化へ。全国募集開始・普通科全県学区へ。

- ・授業力の向上
- ・体験的地域学習のブラッシュアップ
- ・総合的な探究の時間の体系化

矢掛町としてどのような人を育てていくのかという理念の形成が必要

広報活動のあり方について

地域と連携した教育環境の充実

教員間の授業改善が大切であるのと土壌づくりが大切

探究的な授業づくりを目指す。

堀伸二委員

科の名前はどのように決まったのか。地域ビジネス科ではなく商業科、探究コースは国公立大学コースなどもっとストレートな名前にしたらどうか。

オープンスクール2回の内容はどんなものか。授業を見せないのはなぜか。やかげ学など特徴的な授業を見られるようにしてはどうか。

吉岡委員

授業を見せていたこともあるが、矢掛高校の一番のウリは生徒である。
中学校別のブースを作って生徒と中学生が対話することで矢掛高校の良さが伝わると思っている。
矢掛中学校3年生には7月に授業を受けてもらっている。

田尻委員

矢掛高校は生徒数が減っており、矢掛高校がなくなるのではないかという危惧もある。
どのくらいの生徒数を目標にしているのか。

高月校長

定員を満たすことを目指すべきだが、現実的には各学年100人を目指している。
矢掛高校でもいいかと思って入ってきた生徒が、矢掛高校でよかったと思って卒業できるようにしていきたい。

4クラス展開にして矢掛高校で伸ばしてもらえたと思ってもらいたい。
宮本委員に指摘されて、やはり学校の一番の商品は授業だと思った。

入野委員

コース名に疑問を持っている。地域に尋ねると何をやっているのかネーミングからわかりにくい、内容が見えにくいという声を聞いた。
私自身が以前 SNS 部局にいたので、どんな言葉を使うかについて敏感になっているのかもしれないが、学校を選ぶ主体となる中学生にわかりやすいネーミングがいいと思う。
私は地理が好きだったので、地理の常勤の先生がいないのはショックである。

藤原委員

中学生のどの層をターゲットにしているのか。広報も焦点化してはどうか。

吉岡

広報する相手によってターゲットを変えている。
矢掛高校には3つの学校がある。塾相手には高校卒業後大学進学を目指す生徒が多いので探究コースを重点的に、総社地区では商業科のある学校がないので地域ビジネス科、井原地区では井原高校と差別化するために総合コース、矢掛中学校には就職・進学どんな希望にも対応できると広報している。
科・コースの名前よりもわかりやすい広報に努めている。

宮本委員

生徒が3年間の学びを語る機会を作りたい。広報は生徒がするのが効果的である。やかげ学の一環として広報をするのもよいのではないか。
今日の授業を見て、教員の授業への意識が本当に向上しているのか疑問を抱いた。授業が楽しくなければ生徒は伸びない。中高の教員の交流をしている自治体がある。

高月校長

教員の異動は等価交換が原則である。したがって現有戦力を育てるしかない。個人面談で話をしているが、なかなか変化が見えない教員もいる。外に見にいける仕組みを作りたい。授業を見るのが授業力向上につながる。

吉岡

いい授業をする先生は外に向けて広いアンテナを持っている。

室傍聴者

矢掛高校は単位制を返上した唯一の高校である。どんな生徒を育てている学科かわかりやすい名称がよいと考えているが、名称については、魅力化推進室で是非を判断している。名称よりも、授業内容や生徒の学びを見えるようにするべきである。

変化しにくい普通科大規模校が時代のニーズに応えられているとは限らない。そうして穴を埋めるためにも矢掛高校が全県学区に変更したことに意義がある。都市部ではできないが矢掛高校ではできる学びを全県の中学生に展開できる。

かつて探究コース1クラス、商業科1クラスで残りの3クラスは無目的で生活態度もよくなかった。しかしこうした生徒の中にも地域から評価される生徒もいた。そのような生徒を伸ばすためにやかげ学が生まれた。自走できる制度設計にしているが、放っておくと劣化する。

3 連絡

①第3回学校運営協議会の日程について

田中教頭

次回は2月20日（火）14：05～16：50である。

②その他

奥村委員

コノヒトカンの活動紹介。トークフォークダンスへの参加依頼。

4 閉会

副会長挨拶（藤原副会長）

スクラップする部分を考えていきたい。

教員は元気でなければならない。